

■平田鉄胤 国学者。平田篤胤の養子となり，胤没後の平田学派を統率した。

ひらたかねたね

宣長没・・・1801 = 生。父は伊予国新谷藩士碧川術門八。

・・・1810 = 9歳：

水野忠成老中1818 = 17歳：

群書類従完結1819 = 18歳：

膝栗毛終・・・1822 = 21歳：_平田篤胤に入門，

シヰ 戸鳴滝塾1824 = 23歳：*篤胤の長女おてうと結婚して篤胤の養子となると，篤胤の豪放嘉落な性格と，鉄胤の謙虚で篤実な性格とが相まって相乗効果を発揮，篤胤のよき後継者として，平田門の発展に寄与して行く。

シヰ 戸事件・1828 = 27歳：

大塩平八郎乱1837 = 36歳：

勧進帳初演・1840 = 39歳：_養父篤胤の「天朝無窮暦」事件は幕府の司天台から咎めを受け，

天保改革始・1841 = 40歳：_著述禁止と江戸追放処分を受け，

天保改革弾圧1842 = 41歳：_故郷の秋田に赴くことになったが，養父のために奔走し，江戸根岸の自宅で家学を守りつつ，養父の江戸帰府に努めた。

順天堂始・・・1843 = 42歳：_養父篤胤は秋田で没したが，幕末に際し勤皇思想の勃興とともに国学が隆盛したこともあって，平田門には門人が殺到し，その数4千余の多きに達したが，それらをよくまとめ維持したのも鉄胤であって，そうした力量は高く評価されてよい。

阿部正弘首座1845 = 44歳：

孝明天皇・・・1846 = 45歳：

篤胤の国学は，本居宣長の国学とは異なって宗教色が濃厚になり，いわゆる平田神道としての形を整えていったが，鉄胤は門人をことごとく篤胤没後の門人として処遇するなど，自己の学問よりもそうした養父の学問を忠実に遵守することに努めた。篤胤の著わした「天朝無窮暦」「太昊古易伝」などの校訂のために，鉄胤自身暦学・易占の研鑽にも努めている。

ペリー来航・1853 = 52歳：

安政大地震・1855 = 54歳：

桜田門外変・1860 = 59歳：

禁門の変・・・1864 = 63歳：

明治維新・・・1868 = 67歳：_明治維新後は新政府に招かれ，

戊辰戦争終・1869 = 68歳：_明治天皇の侍講も命ぜられているが，

初の日刊新聞1870 = 69歳：_所期の志と違い辞職。

明治6年政変 1873 = 72歳：

その後，参与神祇事務局判事・内国事務局判事・大学大博士・

沖縄県編入・1879 = 78歳：_大教正などを歴任，

明治14年政変1881 = 80歳：_平田学派を率い，新政府の神道行政の中心的存在としても活躍して，

新体詩抄・・・1882 = 81歳：_没した。

「転業余録」「五十実義訣」「古暦月歩式補」「太昊古易伝補」「天朝無窮暦校」「祝詞正訓校」「飛め許と」。

平凡社百科事典，